

リニア岐阜県駅開業後の二次交通に関する調査・分析結果 概要版

調査目的

岐阜県は、リニア中央新幹線や北陸新幹線の開業、東海道新幹線の利便性向上等により、スーパー・メガリージョン形成の重要な位置につくとともに、首都圏や関西圏の国際空港も県の空の玄関口として期待されることから、その効果をより高く受けるため、**リニア岐阜県駅開業後の旅客流動の変化を踏まえた二次交通にかかる課題の整理と移動サービス等の向上に向けた提案**を行う。

I 岐阜県民及び首都圏・関西圏居住者の流動分析（現状）

①岐阜県内の旅客流動は地域間を跨ぐ周遊は多くない

- （岐阜県各地域と首都圏・関西圏の移動は名古屋駅経由が主要経路）
- ・首都圏とのアクセスは、県内各地域とも名古屋駅経由の鉄道利用が所要時間・頻度ともに優位
- ・飛騨地域は名古屋駅経由に加え、鉄道利用の富山駅経由、高速バス利用も優位
- ・関西圏とのアクセスは、県内各地域とも名古屋駅経由の鉄道利用が所要時間・頻度ともに優位

（岐阜県内観光地の周遊は鉄道、高速道路で結ばれている「名古屋－岐阜－中濃－飛騨」と「名古屋－東濃－木曾」の流れがメイン）

- ・県内観光地に訪問する観光客の周遊行動は各地域内において見られるが、地域を跨ぐ周遊行動は少なく、交通ネットワークの状況から、名古屋－岐阜－中濃－飛騨、名古屋－東濃－木曾のつながりが強い傾向

（隣接県とのアクセスがよく岐阜県内に訪れた観光客は県外に出してしまう傾向）

- ・首都圏及び関西圏からの観光客の次の訪問地について、高山市街地や白川郷に訪れた6～7割の人は北陸や長野・山梨方面に訪問
- ・馬籠宿や恵那峡に訪れた6～7割は長野・山梨方面に訪問

②外国人観光客の移動は東海道新幹線に沿った流動が多い

- ・羽田空港を行きのみを利用して岐阜県に訪れた外国人観光客の流動は「ゴールデンルート」として名古屋駅経由の東海道新幹線に沿った流動が多い
- ・東濃地域と比べて、高山市や下呂市は多くの外国人観光客が訪問
- ・外国人観光客にはフリーパスが人気

③東濃・木曾地域と首都圏間は「特急」利用が優位

- ・首都圏から東濃地域は名古屋駅経由の東海道新幹線と特急しなの利用が所要時間（2時間40分程度）・頻度に優位
- ・木曾地域は塩尻駅経由の特急あずさの利用が料金で優位
- ・下り普通列車は多治見駅、瑞浪駅、中津川駅を境として本数が大きく減少、木曾方面へは特急列車利用以外は中津川駅で乗り継ぎが必要

④東濃地域の事業者は約2万

- ・東濃地域の企業立地は、中津川市が最も多く、次いで多治見市、土岐市
- ・首都圏と東濃地域間の出張頻度は、従業員規模の大きい企業ほど多い。（企業アンケート結果）



II リニア岐阜県駅利用者の流動分析（リニア品川－名古屋間開業後）

①リニア岐阜県駅と飛騨地域とのアクセス強化で周遊ルートを開発

- ・首都圏発飛騨地域への移動は、所要時間としては「高山市周辺部」がリニア岐阜県駅と名古屋駅経由の境界
- ・リニア岐阜県駅の乗降人数の約1割は飛騨地域と推計、その約7割が鉄道やバスを利用見込み
- ・飛騨地域と東濃地域を公共交通で結ぶことで、飛騨地域への観光客の「北陸－飛騨－東濃」周遊ルートの可能性
⇒東濃地域と飛騨地域間の旅客流動を早く快適に結ぶ公共交通「南北軸」が必要

②外国人観光客の移動はリニア中央新幹線にシフト

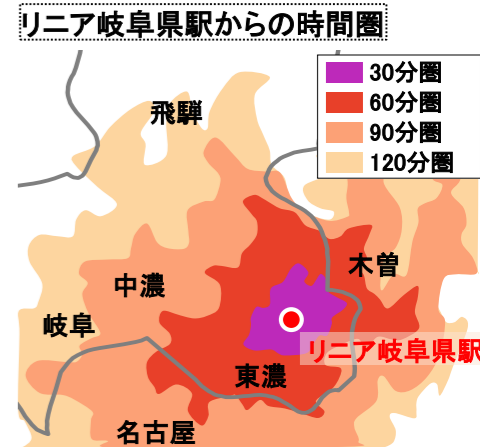
- ・所要時間短縮により、首都圏や関西圏の国際空港からの外国人観光客の移動がリニア中央新幹線にシフトする可能性
- ・リニア岐阜県駅周辺の各観光協会はリニア岐阜県に対する誘客への期待が高く、連携の意向（ヒアリング結果）
- ・観光事業者は、公共交通利用が多い外国人観光客に対しフリーパスがあると進めやすいとの意見（ヒアリング結果）
⇒リニア岐阜県駅と県内の地域間を結ぶアクセス「東西軸」等強化が必要
⇒リニア岐阜県駅の周辺地域や飛騨地域をカバーするフリーパスの創設が必要

③東濃地域の新しい交通結節点としてのリニア岐阜県駅の実現

- ・リニア岐阜県駅からの時間圏（自動車利用）は中津川市や恵那市の中心部が30分圏、東濃地域は60分圏
- ・首都圏から東濃地域や木曾地域へリニア岐阜県駅を利用すると、他の方法より1時間以上早く到達可能
- ・首都圏発東濃地域への移動は、所要時間としては「土岐市、多治見市周辺部」がリニア岐阜県駅と名古屋駅経由の境界
- ・リニア岐阜県駅の乗降人数の約8割は東濃地域と推計、その約6割が鉄道やバスを利用する見込み
⇒リニア岐阜県駅利便性向上に向け、東濃・木曾方面の移動手段の充実が必要
⇒リニア岐阜県駅の利便性の確保と特性の創出が必要

④東濃地域内企業のリニア岐阜県駅利用を促進

- ・東濃地域内企業のリニア岐阜県駅を利用した出張可能性を確認（企業へのアンケート結果）
- ・アクセスは直接車、車やバス・タクシーで最寄り駅へ行き、鉄道で乗り継ぐケースを想定（企業へのアンケート結果）
- ・東濃地域のJR中央本線の多くの駅前には駐車場が整備されており、P&Rは可能
⇒リニア岐阜県駅前の駐車場整備が必要
⇒P&Rや最寄り駅までの交通手段の充実や乗り継ぎがしやすくなる施策が必要



Ⅲ. 課題と対応方針 移動サービス等の向上に向けた提案

地区	課題	具体の事業内容	詳細(事例)	関係者	スケジュール			
					開業前	開業時	開業後	
南北軸	東濃地域と飛騨地域間の旅客流動を早く快適に結ぶ公共交通(南北軸)が必要	下呂・高山方面への快速バスの運行	<ul style="list-style-type: none"> ○同区間を走っている路線バスと調整を図りつつ、乗り継ぎなし又はスムーズな乗り継ぎにより速達性を向上 ○外国人観光客などを対象に、この快速バスを利用した「リニア岐阜県駅－飛騨－北陸(長野・山梨)」といった広域的な周遊旅行商品の開発の誘発を期待 	バス事業者、中津川市、下呂市、(高山市)、県、旅行会社等	検討	実施	拡充等	
	リニア岐阜県駅の周辺地域や飛騨地域をカバーするフリーパスの創設が必要	飛騨地域(≒濃飛バスの営業エリア)の公共交通1日乗り放題券	<ul style="list-style-type: none"> ○快速バスでリニア岐阜県駅と直接結ばれた場合、飛騨地域の鉄道やバスが1日乗り放題(≒紙MaaS)となる券を創設し、飛騨地域内の移動利便性の向上とセットにすることで新たな需要を創出 ○「昇龍道」を周遊する外国人観光客の旅行ニーズにあわせ、複数日の発行も検討 	「MaaS協議会」(県、交通事業者、飛騨地域の市町村、必要に応じて観光団体)		検討	実施	
東西軸	リニア岐阜県駅と県内の地域間を結ぶアクセス(東西軸)等強化が必要	リニア岐阜県駅を拠点とした旅行商品の造成に向けた旅行会社へのプロモーション活動	<ul style="list-style-type: none"> ○リニア岐阜県駅を拠点とした県内各地に外国人観光客を運ぶための旅行商品を造成。飛騨との南北軸に加え、中濃、岐阜、西濃方面との東西軸の展開も期待 ○岐阜県が一体となって旅行会社に対してプロモーションを実施 ○リニア岐阜県駅の利用とあわせて、広域的な視点で東海道新幹線の岐阜羽島駅、中部国際空港の他、隣県の小松空港や関西国際空港などからも利用できることをPR 	県、市町村、各観光協会、交通事業者、旅行会社	検討	実施	拡充等	
		レンタカー等の移動手段の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○カーシェア・レンタカー事業者を呼び込む取組 ○レンタカー利用による、中央自動車道や東海環状自動車道を利用した中濃、岐阜、西濃への展開を期待 	レンタカー・カーシェア事業者、市町村、県	検討	実施	拡充等	
東濃地域／木曽方面	リニア岐阜県駅利便性向上に向け、東濃・木曽方面の移動手段の充実が必要	東濃地域(≒東鉄バス・北恵那交通の営業エリア)の公共交通1日乗り放題券	<ul style="list-style-type: none"> ○東濃地域内の施設等への移動を円滑化する仕掛けとして、東濃地域の鉄道やバスが1日乗り放題(≒紙MaaS)となる券を創設 ○馬籠、恵那峡、苗木城、付知峡、明治座等、東濃地域の資源の磨き上げとあわせて、交通手段との連携を図ることによる公共交通の観光需要と日常需要を獲得 	「MaaS協議会」(県、交通事業者、東濃地域の市町村、必要に応じて観光団体)	検討	実施	強化	拡充等
		日帰り公共交通ツアー	<ul style="list-style-type: none"> ○リニア岐阜県駅を起点に、既存の路線を活用して、目的施設の割引も含めた既存の公共交通を活用したコースを紹介 ○東濃地域内の資源を活用した魅力コンテンツの開発とあわせて、公共交通で行きづらかった場所に往復できる二次交通を確保 	交通事業者、東濃地域の観光協会、東濃地域の市町村、県	検討	実施	強化	拡充等
		多治見方面及び木曽方面の在来線の運行ダイヤの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○沿線地域の利用促進を図る取組とあわせて、JR東海と協議 ○リニア利用者の多治見・木曽方面への利便性の確保のために、リニア岐阜県駅とJR中央本線が乗り継ぎしやすいダイヤを期待 	県・東濃・木曽地域の市町村とてJR東海と調整 沿線県との連携	協議	実施	拡充等	
		多治見～木曽間の観光列車	<ul style="list-style-type: none"> ○リニア開業を契機に、リニア岐阜県駅周辺の東濃地域と木曽地域の観光協会との連携を図り、リニアのダイヤにあわせた観光列車を運行(1日数本)し、木曽方面との観光流動を鉄道に転換 ※JR東海の臨時観光列車「中山道トレイン2020号」を定期運行に移行する等 	県・東濃・木曽地域の市町村とてJR東海と調整 沿線県との連携	協議	実施	拡充等	
		東濃～木曽間の在来線の運行充実	<ul style="list-style-type: none"> ○木曽方面との時間短縮効果を高めるため、沿線地域の利用促進を図る取組とあわせて特急しなのの維持、リニア岐阜県駅から木曽方面への快速・普通列車の直通化等をJR東海と協議 	県・東濃・木曽地域の市町村とてJR東海と調整 沿線県との連携	協議	実施	拡充等	
		P&Rや最寄り駅までの交通手段の充実や乗り継ぎがしやすくなる施策が必要	JR中央本線各駅でのP&R駐車場整備・案内、駅までの交通手段確保促進	<ul style="list-style-type: none"> ○P&R駐車場の整備により、JR中央本線の駅利用によるリニア岐阜県駅との移動利便性を向上 ○自家用車がなくてもリニア岐阜県駅まで行けるように、JR中央本線の駅までのアクセス手段(民間バス、コミュニティバス、タクシー等)を確保 	東濃地域の市町村、県、民間事業者	協議	実施	拡充等
リニア岐阜県駅	リニア岐阜県駅の利便性の確保と特性の創出及びリニア岐阜県駅前の駐車場整備が必要	ビジネス・観光客向けサービス、情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ○豊富な自然と駅利用者のニーズに対応した「岐阜県らしいリニア駅」を整備 ○団体客や個人客の各移動特性を念頭に、休憩所、案内所、物産販売所、食事所、立ち寄り場所(目玉施設)等を整備 	県、市町村、交通事業者、観光協会、旅行会社等	検討	実施	拡充等	
		リニア利用者の乗り換え動線の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○リニアに確実に乗れるための十分な量の駐車場(愛知県豊田地域の利用者も意識)をリニア岐阜県駅前に確保し、リアルタイムの空き状況等を提供 ○在来線、バス、タクシー、レンタカー等へのわかりやすい動線や誘導サイン 	中津川市、県	検討	実施	拡充等	